

## 第6回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成28年6月1日（月） 10:00-12:00

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、市川委員、小野田委員、倉本委員、藤井委員、松本委員、山崎委員

(2) 政府側（宇宙開発戦略推進事務局）

小宮局長、佐伯審議官、行松参事官、高見参事官、松井参事官

(3) 説明者等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課 堀内課長

JAXA 宇宙科学研究所 常田所長

4. 議事要旨

(1) 宇宙科学・探査分野に関する工程表の進捗状況について

資料1に基づき、常田所長から説明を行った。その説明を踏まえ、委員から以下のような意見等があった。（以下、○質問・意見等、●：回答）

○多様な小規模プロジェクトとして、「海外大型計画への国際協力参画」に重点化する方針とのことだが、従来の小型ロケットや気球の取組も重要である。

○太陽系探査科学のプログラム化について具体的にどのような検討が行われているのか。

●小惑星探査機「はやぶさ」、「はやぶさ2」で培った技術を発展させ、火星衛星サンプルリターンプロジェクトを行うことで、「サンプルリターン」を一つのプログラム化された技術として、日本のお家芸としたいと考えている。

○国際協力の取組を「多様な小規模プロジェクト」の中だけで実施するのは様々な制約により難しいので、柔軟な考え方が必要である。

(2) 宇宙科学・探査分野における人材育成について

資料2に基づき、事務局より、宇宙科学・探査分野の人材育成に関するこれまでの議論のポイントについて説明を行った。これらの説明を踏まえ、委員から以下のような意見等があった。（以下、○質問・意見等）

○宇宙科学・探査分野のプロジェクトは長期間にわたるので、今のリーダーの後継となりうる中堅の人材をどのように確保していくのかと言う点について、今後検討していくべきである。また、長期間継続的にプロジェクト

に参加できるよう、テニユアなポストを用意することも大切である。

○宇宙科学研究所の教授がプロジェクトマネージャー(以下、PM)を兼務する場合、それぞれの立場で評価の観点が異なる。PMを1つの職種として、教授職とは別に設置することも検討すべきである。また、プロジェクトの大型化に伴い、PMの役割が過大となっている。海外ではPMとPI(Principal Investigator)の役割が明確となっているので、日本でもそのような体制について検討すべき。

### (3) その他について

宇宙基本計画工程表改訂に向けた中間取りまとめに関して、宇宙科学・探査分野として盛り込むべき事項について議論を行った。委員から以下のような質問があった。(以下、○質問・意見等)

○X線天文衛星「ひとみ」の異常による工程表への影響については、今後どのように議論をしていくのか。

●文部科学省に設置されたX線天文衛星「ひとみ」の異常事象に関する小委員会の議論の結果を踏まえ、宇宙政策委員会等で議論をしていく。

本日の議論を踏まえ、中間取りまとめに盛り込む具体的な内容については、座長に一任となった。

以 上